

BPW CSW インターン派遣事業

第 69 回 国連女性の地位委員会 インターン報告書



2025 年 3 月

認定 NPO 法人 日本 B P W 連合会

目 次

巻頭挨拶 認定 NPO 法人日本 BPW 連合会理事長 名取はにわ	1
第 69 回 国連女性の地位委員会 (CSW69) について 日本 BPW 連合会副理事長 布柴靖枝	2
第 22 回 CSW68 インターン派遣事業について CSW69 プロジェクトリーダー 奥山千波	3
インターンとともに CSW69 に参加して 日本 BPW 連合会ヤング委員長 工藤遥	4
CSW69 インターン派遣事業への支援について 日本 BPW 連合会連合会会計 佐藤道子	5

インターンによる報告

1. インターン活動全体について	6
1-1. はじめに	6
1-2. CSW インターンシップ概要	6
1-3. 特別活動	7
1-3-1. IFBPW リーダーズサミット／クリアファルチャーディナー	7
1-3-2. コンサルテーション・デー (オンライン開催)	8
1-3-3. UN Women: Global Youth Dialogue	8
1-3-4. CSW69 開会式	9
1-3-5. 国連日本政府代表部 NGO ブリーフィング 1 回目	9
1-3-6. ユース代表のインタラクティブ・ダイアログ	10
1-3-7. Fish Family Foundation 澤目梢様 顔合わせ	13
1-3-8. UN Women 訪問	14
1-4. 各インターンが参加したイベント	15
2. 主催したパレレルイベントについて	16
2-1. パレレルイベントの概要	16
2-2. パレレルイベントの舞台裏ー企画のプロセス	18
2-3. 当日の様子	19
3. インターン個人報告	21
3-1. 横井桃子	21
3-2. 丹沢千文	22
4. 現地情報について	23

日本 BPW CSW69 インターン派遣事業について

認定 NPO 法人日本 BPW 連合会理事長

名取 はにわ

今から 22 年前の 2003 年、日本 BPW 連合会の平松昌子会長は、日本の若い女性たちをインターンとして CSW（国連女性の地位委員会）に送る事業を開始した。国連や世界ではジェンダー平等について、男女一緒に活発に議論している。日本の若い女性たちにその雰囲気を感じてもらいたい。日本の NGO としては画期的な活動だった。



本法人は、1951 年に創立され、2017 年 11 月 7 日に東京都から認定を受けて活動している NPO 法人である。BPW の B は Business、P は Professional、W は Women。働く女性、働いてきた女性、これから働く女性達を応援してジェンダー平等の実現を目指す提言型 NGO である。

国際的には BPW International（以下「IFBPW」という。）の傘下団体であり、IFBPW は国連経済社会理事会に対して総合的協議資格を有する国連 NGO である。

日本 BPW 連合会も 2023 年 7 月 25 日付けで国連の特殊協議資格を取得し、国連 NGO となった。これにより、国連入館証取得など様々な権利を得ることとなった。

CSW69 インターンは丹沢千文さん、横井桃子さんの 2 人である。

横井さんは昨年の鈴木りゆかさんに続いて、日本政府代表団のユース代表に選任された。

会員たちは CSW に先立って IFBPW が開催したリーダーズサミットとクリアファルチャーディナーに参加した。

日本 BPW 連合会の CSW インターン事業に対して、フィッシュファミリー財団創設者 JWLI エコシステム会長から「平松昌子メモリアル基金」として補助を受けた。今回は、3 年期限の最終年となる。

フィッシュ・厚子・東光会長及びパレルイベントのために国連に足を運んでくださった澤目梢さんにこの場をお借りして、深く感謝する。

インターンたちは昨年、奥山千波さん（CSW67 インターン・個人会員）をプロジェクトチームリーダーとして準備を重ね、議論の末、テーマを「性的同意」に絞った。

CSW 会期中、日本から奥山さんのサポートを受けながら、パレルイベントをリモートで開催した。参加者も多く、大変充実したイベントだったので、是非本文を読んでいただきたい。また、インターンに同行して、様々なサポートを行った布柴靖枝副理事長、工藤遥ヤング委員長、林智意組織委員長、神原文子さん（神戸クラブ）、藤川恵子さん（札幌クラブ）のご尽力に心から感謝する。

第 69 回国連女性の地位委員会について

日本 BPW 連合会副理事長 布柴靖枝

CSW とは、国連経済社会理事会 (ECOSOC) の機能委員会の一つで、1946 年 6 月に設置された女性の地位向上、ジェンダー平等に向けて、経済社会理事会に勧告、報告、提案などを行っている機関である。CSW での合意文書を受けて経済社会理事会は、さらに国連の最高議決機関である国連総会 (第 3 委員会) に勧告を行っている。ちなみに BPW International は、発足時から一般協議資格をもつ歴史のある国際 NGO 団体である。さらに、一昨年、日本 BPW 連合会は、独自で国連経済社会理事会 (ECOSOC) の厳しい審査を経て、特殊協議資格を取得することができた。それにより、国連 NGO として独自でグラウンドパス (国連入館証) を得られたばかりでなく、私たちの声を CSW や ECOSOC を通して、直接国連に意見を言える立場になった。これは、私たちのアドボカシー活動がさらにパワフルに行えることになったことを意味しており、今後のさらなる活動の発展につながる大きな基盤ができたことになる。



さて、今年、第 69 回目を迎えた国連の女性の地位委員会 (CSW69) は、1995 年に第 4 回世界会議の中で北京宣言・行動綱領が採択されて 30 周年という記念すべき年に当たることから世界中から約 13,000 人、186 の国と地域、1 人の副首相、3 人の副大統領、97 人の官僚、5,845 の NGO の参加あったと報告されている。文字通り、国連最大規模の会合となった。

H.E. Mr. Abdulaziz M. Alwasil (サウジアラビア) が議長を務め、アントニオ＝グテーレス事務総長より、「4 か国に 1 か国でバックラッシュが生じ、先行き不透明な情勢が続いている現在、平和構築に女性の完全で、平等で、意味のある参加を保障していくことがさらに必須となる」という言葉から開会した。尚、今年は、北京宣言・行動綱領の進捗状況と直面する課題について検証をする年にあたるために、例年のような合意文書という形でなく、国家・地域レベルでの検証を行うことが中心に進められ、最終的に、北京宣言・行動綱領の加速化した実施を目指すという政治宣言が採択された。

さて、インターンの活躍の詳細については他に譲ることになるが、CSW インターン派遣事業も 22 年目に入り、今回は、日本政府代表団ユース代表として、昨年の鈴木りゆかさんに続き、日本 BPW 連合会が推薦したインターンの横井桃子さんが選ばれ、ヤング公式会合で素晴らしいステートメントを発表してくれた。BPW インターンの活動は実に目覚ましかった。

本報告書は、CSW69 での体験を通して、ヤングが何を見、何を感じたのかを示す貴重な資料である。CSW67 インターン経験者の奥山千波さんが、プロジェクトリーダーとして後輩のインターンの取りまとめ役になってくれたことも大変喜ばしく、共に活動を支えてくださった CSW プロジェクトメンバーに心から感謝申し上げたい。

第 22 回 CSW69 インターン派遣事業について

CSW69 プロジェクトリーダー 奥山千波

◆インターン応募者について

2020 年からの COVID-19 蔓延で、CSW64・65・66 では渡航しなかったが、2022 年の CSW67 以来、ハイブリッドを含む対面開催が再開し、今回も昨年同様に現地（ニューヨーク）にインターンを 2 名派遣することができた。以下、肩書は 2024 年 10 月時点のものである。



面接参加者：（敬称略）

応募者：丹沢 千文：会社員（広報／宣伝）

BPW メンバー（奥山千波、工藤遥、中山由美子、布柴靖枝、林智意、藤田典子）

ZOOM での面接は 10 月 26 日に行った。応募時の A4 サイズ 1 枚の応募動機（邦文と英文）資料の内容について、面接時に改めて自己紹介を兼ねて、口頭（英語）で説明を受けたのち、メンバーから簡単な質問を行った。終了後、メンバー全員一致で丹沢さんの派遣を決定し、後日通知した。

なお、横井桃子さん（会社員/IT 営業職）は 2020 年に CSW インターンとして選出していたが、COVID-19 により現地派遣が叶わなかった。今回、現地参加の意思を確認し、5 年越しの派遣が決定した。

2 名は CSW に対して積極的な参加動機があり、国連を経験することで、次のアクションに結び付ける意欲が認められ、派遣するに足ることを確認した。また、派遣された場合の事後の対応（報告書の作成、NWEF（国立女性教育会館）フォーラムでの発表、BPW イベントへの参加など）の諒解を得た。

インターン応募のきっかけは、丹沢さんは学生時代に当時 BPW 山梨の深沢会長とのご縁、横井さんは当初の応募では所属大学の教授の勧め、今回は連合会からの声掛けであった。

派遣決定後は、CSW69 の事前勉強会への参加など、積極的に情報を共有し、また、パレルイベント開催に向けて精力的に活動したことは、他頁に記載の通りである。さらに IFBPW 主催の事前イベントに参加する必要上、2 名全員が日本 BPW 連合会個人会員として、加入したことも追記しておく。

インターンとともに CSW69 に参加して

日本 BPW 連合会ヤング委員長 工藤 遥

2015 年に私自身がインターンとして参加した CSW59 以来、今回が 10 年ぶり 2 度目の CSW 参加となった。CSW59 のテーマが「北京+20」、今回の CSW69 が「北京+30」であり、いずれも「北京宣言・行動綱領」の実施状況とレビューを軸として、多様なテーマのイベントが開催された。この 10 年で世界のジェンダー平等はどこまで進展したのか、取り組みの現状と課題を見聞きできることを期待し、渡米した。



CSW59 では、「女性と政治」領域のサイドイベントにおいて、クオータ制導入をめぐる議論が行われていたが、CSW69 では、多くのイベントで女性の大臣経験者が何人も登壇し、特に若い世代の政治家が活発に発言していたのが印象的であった。この 10 年で世界では着実に政治に女性が進出していることがうかがえた（と同時に日本がますます遅れをとっているのを感じた）一方で、各イベントでは共通して、女性政治家に対するオンライン上でのハラスメントや性暴力の問題が頻繁に言及されていた。

グテーレス事務総長が開会式で言及したように、北京会議からの 30 年で世界は前進したが、依然として大きな格差、不平等、暴力、差別が残り、新たなテクノロジーを悪用した問題も深刻化している。北欧諸国の大臣が登壇したイベントではジェンダー平等社会の更なる深化を感じたが、参加者からは、こうした国々においても移民や障がい者、LGBTQ+ の権利擁護は不十分であるといった課題や、途上国や紛争地域で女性や女兒が危機的状況にあることについて切実な訴えがあがり、「No one left behind」が厳しく問われた。女性と女兒の権利は人権であり、ジェンダー平等は社会の持続可能性と平和の基盤である、という基本的かつ根本的な認識を、国内も含め、今後も粘り強く訴えていかなければならないと感じた。

CSW69 インターンの丹沢千文さん、横井桃子さんは、お二人とも社会人経験者であり、パラレルイベントの企画・運営では、彼女たち自身の経験やネットワーク、スキルが存分に発揮された。「性的同意」をテーマに登壇者全員ユースで臨んだ本企画には、朝から 100 名以上がオンライン参加し、質疑も含めて大きな反響があった。また CSW 期間中は、お二人とも各国・地域からの参加者と活発に交流され、昨年に引き続き日本政府代表団のユース代表として横井さんが選出され、力強いステートメントを発表された。日本 BPW 連合会のヤング会員が、国際会議の場でこのような素晴らしいご活躍をされたことを大変誇らしく思った。

また、NY 滞在中は布柴副理事長や林組織委員長、神原会員、国際婦人年連絡会の神谷様、JWLI の澤目様をはじめ、国内外から CSW に集まった多くの方々とお話する機会を得られた。志を共にする、多世代の方々との出会いと交流から、今回も様々な刺激をいただき、エンパワーされた。お世話になった皆様に、この場をかりて改めて感謝を申し上げたい。

インターン派遣事業への支援について

日本 BPW 連合会会計 佐藤道子

【平松昌子メモリアル基金】

フィッシュファミリー財団のフィッシュ・東光・厚子さんによる「平松昌子メモリアル基金」は、CSW インターン派遣事業が「アクションにつながり、最長で1年の短期的成果・インパクトを達成すること」という条件のもと、この派遣事業資金として年100万円の補助を2023年から2025年の3年間継続する」というものでした。

CSW69のインターン派遣募集において、昨年に引き続きCSW パラレルイベントの開催と、報告書の作成、帰国後にCSW インターン派遣の成果を踏まえたイベントを実施することを、補助の条件としました。

この「平松昌子メモリアル基金」は、使途特定寄附として、CSW 関連イベントにかかる費用のほか、CSW インターン派遣に伴う渡航費用・宿泊費の補助に充当します。

使途特定寄付については、認定NPO 法人日本 BPW 連合会 事業報告書に掲載し東京都へ提出しています。

日本 BPW 連合会は、国連 CSW インターン派遣事業を開始した2003年当初から、事業の創設者である故・平松昌子前理事長に「派遣に伴う渡航費の調達も含めて、主体的に国連女性の地位委員会（CSW）に参加できる方を派遣したい」との強い思いがあり、BPW 連合会からのインターンへの補助は、海外旅行保険や、BPW International との交流への参加費など、最小限にとどめてきました。しかし、昨今の国際的な物価高や為替変動リスクから、インターンの負担は大きくなっていました。

フィッシュ・東光・厚子さんの故平松昌子前理事長への厚い信頼とご理解により、このような形で支援が実現したことを深く感謝するとともに、支援を享受したインターンが今後、大きな成果を上げることを祈願しています。

平松昌子基金は今年で最後となりましたが、今後も BPW としても資金調達に努め、次年度以降のインターン達に支援ができるよう努めたいと考えております。

1. インターン活動全体について

1-1. はじめに

このたび、第 69 回国連女性の地位委員会（CSW69）において、日本 BPW 連合会インターンとして参加の機会を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

本インターン活動では、パラレルイベントの企画、運営および実施に携わる貴重な経験をさせていただきました。関係各位の多大なるご支援とご尽力のもと、滞りなく全日程を終えることができましたこと、深く感謝申し上げます以下に、本インターン活動の記録を報告いたします。

UN CSW69 インターナー同 丹沢千文、横井桃子

1-2. CSW インターンシップ概要

報告：丹沢

【CSW とは】

国連女性の地位委員会（Commission on the Status of Women: CSW）は、国連経済社会理事会（ECOSOC）の機能委員会の一つであり、政治、経済、社会、市民、教育の各分野における女性の地位向上に関する報告や提言を行っている。ECOSOC は、CSW からの報告をもとに、国連総会に対して勧告を行う。CSW の年次総会には、加盟国の政府代表団に加え、国連機関および ECOSOC 協議資格を有する NGO 等も参加することができる。

CSW の年次総会では、その年の優先テーマを中心に、女性の地位に関する討議が行われ、その成果は「合意結論（Agreed Conclusions）」として取りまとめられる。第 69 回 CSW の主な焦点は、「北京宣言および行動綱領」ならびに国連総会第 23 特別会合の成果の実施状況に関するレビューおよび評価に置かれる。行動綱領の実施およびジェンダー平等と女性のエンパワーメントの達成に影響を及ぼす現在の課題について評価が行われるとともに、これらが持続可能な開発のための 2030 アジェンダの完全な実現にどのように寄与するかについても検討された。

【サイドイベント・パラレルイベント】

会期中には公式プログラムを補完する形で、サイドイベントおよびパラレルイベントと呼ばれる関連行事が多数開催される。サイドイベントは、各国の常駐代表部、国連機関、政府間組織などが主催し、主に国連本部内において実施される。これらのイベントでは、委員会の議題に関連する政策的・実務的なテーマが取り上げられ、各国政府関係者や国連職員、専門家による高度な議論が展開される。一方、パラレルイベントは主に NGO（市民社会団体）によって主催され、国連本部外の会場やオンライン上で開催される。これらのイベントは、

草の根レベルの実践や、多様な地域・立場からの声を共有する場として機能しており、非公式ながらも市民社会の視点を国際的な議論に反映させる重要な役割を担っている。今回私たちは、NGO 参加枠において認められている日本 BPW 連合会のインターンとして、パラレルイベントの企画、運営および実施を行なった。

※参考 URL

CSW69 / Beijing+30 (2025)

<https://www.unwomen.org/en/how-we-work/commission-on-the-status-of-women/csw69-2025>

1-3. 特別活動

1-3-1. IFBPW リーダーズサミット／クレアファルチャーディナー

報告：丹沢

CSW 開催に先立って、3月7日から8日の2日間にわたり、IFBPW リーダーズサミットが終日にわたり開催された。本サミットには、ジェンダー平等と女性の社会的地位向上という共通の理念を掲げる BPW メンバーが世界各国から集まり、活発で建設的な発表、議論が展開された。参加者は多様な職種や世代にわたり、それぞれが自身の専門的知見と経験を活かして議論に貢献しており、貴重な学びの機会となった。メンバーの中には、トランプ政権による USAID の解体により直接的な影響を受けたと話すメンバーもあり、状況の切迫性を改めて実感した。さらに、サミット終了後に開催されたクレアファルチャーディナーでは、ジェンダー平等へ向けた活動において豊富な経験を持つ参加者たちとの間で、世代や国境を越えた極めて有意義な交流が行われた。



アジア太平洋地域のメンバーとの記念



リーダーズサミットの様子

1-3-2. コンサルテーション・デー（オンライン開催）

報告：丹沢

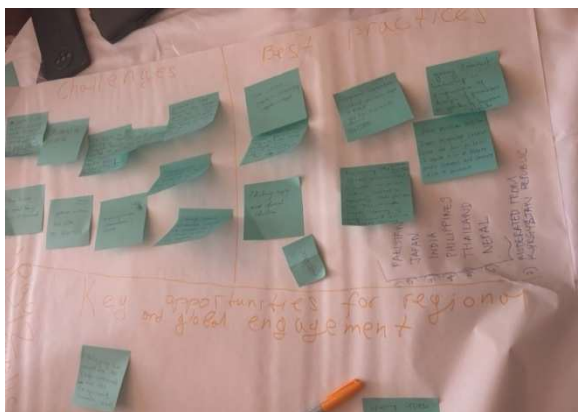
3月9日8:00~9:00において、NGO CSW/NY 主催におけるコンサルテーション・デーがオンラインにて開催された。翌日のCSW69の公式開始に先立った、NGO CSW/NY 主催の重要なキックオフイベントである。本イベントは、さまざまな分野で活躍する方々が一堂に会し、ジェンダー平等に向けた取り組みに対する意識を新たににする貴重な機会となった。異なる世代やバックグラウンドを持つ参加者の登壇により、オンラインの開催ではあったが、今後のCSW インターン活動に向けての新たなインスピレーションとエンパワーメントを得ることができた。

1-3-3. UN Women: Global Youth Dialogue

報告：丹沢

3月9日の午後、UN Women 主催のGlobal Youth Dialogueが開催され、世界中からユースフェミニストが集まり、意見を交わした。事前の参加条件やアンケートにより、インターセクショナリティを重視するフェミニストたちが集まり、セーフスペースで議論が行われた。

このイベントは、第69回女性の地位委員会（CSW69）の会期に先立ち、北京宣言および行動綱領、さらには北京+30 アクションアジェンダの実施に影響を与える方策を探ることを目的としている。大きな議題の一つとして、CSWの活性化（CSW Revitalization）が挙げられた。特に若いフェミニストや草の根活動家の間で、CSWの活性化に関する理解や関与の方法について認識不足が課題として指摘され、提言がまとめられた。若者の声が実際に国際的な政策対話の場に届くという経験の意義が再認識されるとともに、同様の理念を掲げる仲間が世界中に存在することへの希望と連帯感が共有された。



CSWの活性化に関する参加者の意見をまとめた



会場の様子

1-3-4. CSW69 開会式

報告：丹沢

3月10日、CSW（女性の地位委員会）が本格的に始動し、開会式が国連本部の講堂にて開催された。開会に際し、アントニオ・グテーレス国連事務総長は「Women's rights are under siege. The poison of patriarchy is back, and it is back with a vengeance.

（女性の権利は包囲されている。家父長制の毒が再び猛威を振るっている）」と述べ、ジェンダー不平等の現状に対して強い警鐘を鳴らした。また、国連総会議長のフィレモン・ヤン氏は、北京宣言から30年が経過した現在においても、現行の進捗ペースでは、すべての女性を貧困から救うには137年、児童婚を終わらせるには68年を要するという厳しい見通しを示し、国際社会の取り組みの加速を求めた。前日のUN Women主催「Global Youth Dialogue」では、若者による活発な意見交換が行われ、希望に満ちた雰囲気が感じられたが、CSWの開会式では一転して、女性や子どもたちの命と権利がいまなお世界各地で深刻に脅かされているという現実を突きつけられた。CSWは、ジェンダー平等の実現に向けて国際社会が再び明確な意思を示す、極めて重要な場であることを再認識した。



開会式の様子



国連の建物

1-3-5. 国連日本政府代表部 NGO ブリーフィング 1回目

報告：横井

3月13日（木）17:00～18:00に、日本政府代表部より、CSW69に関連するNGO向けブリーフィングが開催された。冒頭では、英利アリフィア外務大臣政務官のCSW期間中の活動報告があり、女性の政治参加、エンパワーメント、女性に対する暴力といった重要分野を中心に、WPS（女性・平和・安全保障）の国際的議論への積極的な関与が紹介された。また、日本がウクライナ主催の「紛争下の性暴力国際アライアンス」会合に出席し、Global Survivor'

s Fund (GSF) の理事を務めていることにも触れられた。

代表の大崎氏からは政治宣言の背景についての説明があり、各国が提出した 5 年間の進捗報告をもとに地域別の分析を経て、グローバルな宣言へとまとめられている点が共有された。特に、世界各地で顕在化するジェンダー平等に対するバックラッシュに直面する中で、市民社会の役割-とりわけアカウンタビリティの確保-の重要性が強調された。また、法制度の整備が一定の成果を見せている一方で、その実施 (enforcement) や前線で活動する NGO への資金支援の必要性も議論された。

内閣府男女共同参画局からは、日本国内での CSW 成果の反映に関する取り組みが報告された。特に、地域の若者の意見を含めた政策形成の必要性、市民社会との継続的な協働の重要性が語られた。政策アドボカシーを担う NGO の層の薄さが課題として挙げられ、データや統計を活用した戦略的・創造的なアプローチの必要性が指摘された。後半は質疑応答の時間が設けられ、現地で参加したユースから積極的に質問がされたのが印象的だった。質問の一つであった若者の参画に関しては、内閣府としても早期段階での巻き込みを模索しており、今後の連携強化の可能性が示唆された。全体を通じて、日本政府のジェンダー平等に対する国際的・国内的な姿勢とともに、市民社会との協調の必要性が再確認される場となった。

1-3-6. ユース代表のインタラクティブ・ダイアログ

報告：横井

3 月 14 日 (金)、ユース代表によるインタラクティブ・ダイアログが実施された。このセッションは、国連加盟国の若者たちが一堂に会し、CSW69 の主要テーマに関わるそれぞれの現場での経験や学び、実践例などを共有し合う対話の場として設けられている。会場では、希望者がマイクのボタンを押すことで発言の意思を示し、議長の指名を受けた後に最大 3 分間のステートメントを行うことができる形式となっていた。私は今年、日本政府代表団のユース代表としてこのセッションに参加し、自身の活動経験をもとにスピーチを行う機会を得た。以下に、その際のスピーチ原稿を記載する。



スピーチ発表中の様子

こんにちは、日本政府代表団ユース代表の横井桃子と申します。本日はこのような貴重な機会をいただき、ありがとうございます。

CSW の準備を進める中で、私は何度も「CSW は、本当に変化を生み出しているのだろうか」と自問しました。「私は、日本で性暴力の問題に取り組む団体 mimosas の副理事として日々活動しており、女性や少女が被害を受ける現実と向き合っています。北京行動綱領から 30 年が経った今も、性暴力は多くの人にとって現実的な問題です。

日本では、性暴力被害者のためのワンストップ支援センターに相談に来る人の約半数を 10 代以下が占めています。被害の多くは不同意性交罪であり、相談件数の 10% 以上は、保護者からの性的虐待を含んでいます。こうした数字は単なる統計ではなく、行動を求める「声」ではないでしょうか。

では、CSW はどうすればこの現実を変えられるのでしょうか？ ここに集まっている私たちは、この対話を現実的で永続的な変化へとつなげられる存在であるべきです。

そのために、包括的な性教育を義務教育の中で当たり前のようにするべきだと私は考えます。全ての若者が、自分の権利、尊重、境界線について学ぶ機会を持てることが不可欠です。また、ワンストップ支援センターが全国的に十分な資金とアクセスを確保される必要があります。被害者には共感だけでなく、継続的で具体的な支援が必要です。

そして、若い女性たちを意思決定の場に置くこと。対話の参加者としてだけでなく、政策決定者、リーダー、予算配分を決める立場として登場すべきです。私たちに関わる政策が議論されるのであれば、私たち自身がその議論に加わらなければなりません。

今日この場にいる政策立案者の皆さまへ。どうか私たちの声に耳を傾けてください。私たちは未来をつくる存在です。北京行動綱領は、約束でした。私たちは今、その約束の「実行」を求めています。ありがとうございました。

Hello, my name is Momoko Yokoi, and I am a youth delegate from Japan. Thank you for this opportunity to speak today.

As I prepared for CSW, I found myself asking: Does this space truly create change? As a board member of Mimosas, an organization addressing sexual violence in Japan, I hear daily stories of women and girls suffering from sexual assault and harassment. Thirty years after the Beijing Platform for Action, sexual violence remains a reality for too many.

In Japan, nearly 50% of those seeking help from One-Stop Support Centers for sexual violence are under 19. The most common cases involve rape, making up nearly half of all reports. Shockingly, over 10% of cases involve sexual violence by a guardian against a child under 18. Despite decades of global commitments, young women and girls remain unprotected. These numbers are not just statistics. They are a call to action.

So, how can CSW be influential enough to change this reality? How can we, who are privileged to be in this space today, ensure that the conversations we have here in this room turn into real, lasting change?

From my perspective, this means implementing comprehensive sexuality education—not as an option, but as a fundamental part of the curriculum—so every young person has an opportunity to learn about boundaries, respect, and their rights. This also means ensuring that One-Stop Support Centers are properly funded and accessible nationwide—so no survivor is left without medical care, legal support, or a safe space to turn to. Survivors don't just need sympathy. They need real, sustained support.

And finally, it means putting young women where they belong: in positions of power. Not just in conversations about gender equality as participants in dialogues like this, but as policymakers, leaders, and budget decision-makers. If policies are being made about us, we must be at the table shaping them.

To the policymakers listening today: hear us, because we are the future. The Beijing Platform for Action was a promise. Now, we demand action. Thank you.

なお、インタラクティブ・ダイアログ終了後にはユース代表同士で意見交換する時間が十分に確保されていなかったため、参加者とゆっくりと話す機会を持てなかったことは少し残念に感じた。一方で、他の代表のスピーチの中には特に印象に残ったものもあった。たとえば、プラン・インターナショナルのユース代表は、「私たちはどれほど多くの時間を、こうした快適な会議室での議論に費やしてきたのだろうか？」という問いかけからスピーチを始め、国際会議の場が現実の変化にどれだけ結びついているのかを厳しく問い直していた。形式的な対話に終始するのではなく、現場に届く実効性ある議論と行動が求められているというメッセージは、非常に印象的だった。

こうした問題意識は、CSW 終了後に UN Women 主催で開催されたユース会合でも共有された。会合では、CSW の活性化（CSW Revitalization）に関する議論が行われ、ユース・インタラクティブ・ダイアログが当初の目的どおり「若者の声を国連の場に届ける機会」としては機能している一方で、かつて参加していた各国閣僚などのハイレベルな関係者の姿がなく、若者同士の語り合いの場にとどまってしまっている現状が課題として指摘された。私自身も、今回のスピーチがこの場限りのものになってしまうのではないかという不安を抱いた一人である。今後は、ユースの声が単なる象徴的存在としてではなく、実際の政策決定過程に組み込まれ、意思決定に関わるステークホルダーとの対話の機会が拡充されるよう声を上げていきたい。

1-3-7. Fish Family Foundation 澤目梢様との交流

報告：横井

3月13日、CSW インターン派遣を支援して下さった Fish Family Foundation の澤目様とイタリアンレストランにてランチを共にした。今回の渡航は、物価高騰や円安の影響で宿泊費などが大きく跳ね上がっており、同財団からのご支援がなければ実現しなかったと実感している。当日は、CSW で印象に残ったイベントについて語り合ったほか、日頃の活動に



澤目梢さんとのランチの様子



国連前で澤目さんと記念撮影

についてもお互いに共有するなど、和やかな雰囲気の中で交流ができた。時差ボケと連日のスケジュールで疲れが溜まっていたが、気持ちがほっと和らぐ時間だった。また、「もっと発言していいのよ」と澤目様から背中を押していただいたことがきっかけとなり、その後参加したセッションで積極的に質問を行うことができた。

1-3-8. UN Women 訪問

報告：横井

滞在中、UN Women 本部の Deputy Director, Policy Programme and Intergovernmental Division である石川祥子さんを訪問し、お話を伺う貴重な機会を得た。学生時代に日本事務所でインターンをしていたこともあり、今回は本部レベルでの UN Women の役割や取り組みについて直接学ぶことができ、非常に興味深かった。質疑応答では、今回の CSW でも注目された「Technology Facilitated Gender-Based Violence (TFGBV)」の課題や、民間企業への規制の難しさ、市民社会の声をどのように政策に反映させていくかといった、実務的な視点を含む多岐にわたる話題が展開された。また、私自身が大学院進学を9月に控え、今後のキャリアを模索しているタイミングだったため、石川さんのこれまでのキャリアパスを伺えたことも、大きな学びとなった。



UN Women オフィス内での記念撮影

1-4. 各インターンが参加したイベント

	2025/3/9(日)	2025/3/10(月)	2025/3/11(火)
丹沢	・ Consultation Day 【訳】 CSW のオープニングにあわせて開催される記念イベント ・ Global Youth Dialogue 【訳】 グローバルユースによる対話イベント	・ Women Leadership: How traumas develop power and decision making 【訳】 女性のリーダーシップ：トラウマが力と意思決定にどう影響するか ・ Opening of the session 【訳】 開会式 ・ Women and health Promoting Sexual and Reproductive Health and Rights in Complex Contexts 【訳】 女性と健康：複雑な状況下での性と生殖に関する健康と権利 (SRHR) の推進	・ Testimonies from Gaza 【訳】 ガザからの証言 ・ Women's Leadership 【訳】 女性のリーダーシップ ・ Women in Gaza Rising for Freedom and Dignity 【訳】 自由と尊厳のために立ち上がるガザの女性たち
横井	・ Consultation Day 【訳】 CSW のオープニングにあわせて開催される記念イベント ・ Global Youth Dialogue 【訳】 グローバルユースによる対話イベント	・ Opening of the session 【訳】 開会式 ・ Women and health Promoting Sexual and Reproductive Health and Rights in Complex Contexts 【訳】 女性と健康：複雑な状況下での性と生殖に関する健康と権利 (SRHR) の推進	・ Townhall Meeting 【訳】 タウンホール・ミーティング（公開討論形式の会合） ・ Women in Gaza Rising for Freedom and Dignity 【訳】 自由と尊厳のために立ち上がるガザの女性たち ・ Empowerment of Women with Technology 【訳】 テクノロジーによる女性のエンパワーメント

	2025/3/12(水)	2025/3/13(木)	2025/3/14(金)
丹沢	・ Sexual Consent as Culture: Youth Leading Change 【訳】 性的同意を文化に：若者が切り開く未来 ・ The LGBTQ+ Movement in Asia: Reflections on the Past and Future Directions 【訳】 アジアにおける LGBTQ+ 運動：過去の振り返りと今後の展望	・ What Can NGOs Do to Promote the Concept of 'Women, Peace and Security' 【訳】 NGO は「女性・平和・安全保障 (WPS)」の概念をどう推進できるか ・ So What's now? Reviewing progress in the US on equity 【訳】 米国における平等の進展：現状を見直す	・ High-level interactive dialogue – “Beijing@30”: a dialogue with youth representatives 【訳】 ハイレベル・インタラクティブ・ダイアログ：「北京+30」ユース代表との対話

横井	・ Sexual Consent as Culture: Youth Leading Change 【訳】性的同意を文化に：若者が切り開く未来 ・ Shaping Peace in Sudan: The Critical Role of Sudanese Women and the Women, Peace and Security Framework 【訳】スーダンにおける平和構築：スーダン女性の重要な役割と WPS（女性・平和・安全保障）枠組み	・ What Can NGOs Do to Promote the Concept of 'Women, Peace and Security' 【訳】NGO は「女性・平和・安全保障（WPS）」の概念をどう推進できるか ・ So What's now? Reviewing progress in the US on equity 【訳】米国における平等の進展：現状を見直す	・ High-level interactive dialogue – “Beijing@30”: a dialogue with youth representatives 【訳】ハイレベル・インタラクティブ・ダイアログ：「北京+30」ユース代表との対話
----	---	---	--

*3月7日・8日は BPW Leaders' Summit に参加。

2. 主催したパラレルイベントについて

報告：横井

2-1. パラレルイベントの概要

パラレルイベントは、国連 CSW の会期中に、NGO がアドボカシー活動を行う場である。フィッシュ財団から平松昌子メモリアル基金を受けたことで、日本 BPW 連合会は今回オンラインでのパラレルイベントを企画・開催した。企画のプロセスに関するスケジュールの詳細を、以下記載する。

日付	主な活動内容	詳細・アクション
10月	顔合わせ・キックオフ	- BPW 事務局とインターンによる Zoom 顔合わせ実施 - イベント開催に向けた基本スケジュール確認
11月	テーマ・アジェンダ決定	- 毎週ミーティング実施 - CSW69 の全体テーマ「北京+30」に沿ったトピックを検討し、テーマを決定 - パネルのアジェンダ・講師候補の選定 - イベント企画書（概要・目的・開催形態・当日の流れ）の作成
12月	イベント登録・講師調整	- 作成した企画書をもとに CSW 公式サイトへイベント登録 - 登壇者に正式連絡・参加確定と日程調整
1月	内容調整・登壇者打ち合わせ	- パネルディスカッションでの質問項目の最終決定 - 登壇者と Zoom で事前打ち合わせを実施 - 各自の役割やタイムラインの確認
2月	広報開始・当日運営体制の構築	- イベントチラシを Canva で制作、BPW ネットワーク等で広報開始（中旬～） - Whova や Peatix でイベント登録開始 - 当日の役割分担・進行マニュアルの整理
3月	最終準備・実施直前	- 引き続き広報を継続 - 当日のスクリプト・スライド作成 - 運営メンバー全員で前日リハーサル実施（Zoom 接続テスト・動線確認など）

【日時】 3月12日(水) 8時半—10時 (日本時間 21時半—23時)
 【会場】 オンライン (zoom)
 【集客方法】

日本からでも参加できる時間帯だったため、以下の英語と日本語バージョンのチラシを作成し、Whova アプリ / Peatix / Women's Action Network 上でのイベント登録 / 日本 BPW・IFBPW メンバーとの WhatsApp チャットグループを通して、広報を実施した。

CSW69 (2025) Parallel Event

性的同意を文化に：若者が切り開く未来

2025年3月12日 (水)
8時半 - 10時 (EDT)
21時半 - 23時 (日本時間)
会場: オンライン(Zoom)

参加登録はこちら

パネリスト

ミシャ・カデ
Columbia大学法科大学院、
Sciences Po Paris、パリ・ソルボンヌ大学の共同プログラム卒業生

オーロラ・ピネリ
Egapon VCIにてインパクト投資
を学ぶ学生

イミニ・ドロソフォリディ
Egapon VCIにてインパクト投資
を学ぶ学生

モデレーター

横井 綾子
日本BPW連合会 CSW69イーター

丹沢 千文
上智大学在学中、性的同意の重要性を伝える学生団体Speak Up Sophiaを立ち上げ、キャンパス内での啓発活動を実施。博士課程での研究テーマは、日本における性暴力被害者に対する支援策に関する研究。2023年にはCSW69に参加し、FORA Global Summitで、イタリア代表としてジェンダーの平等を推進するNGO「Legal Change」を創設し、その活動を通じて大学分野での社会変革を目指している。

CSW69 (2025) Parallel Event

Sexual Consent as Culture: Youth Leading Change

Wednesday, March 12th
8:30am - 10am (EDT)
21:30pm - 23pm (JST)
Venue: Online (via Zoom)

Register Here!

PANELISTS

Misha Cade
As an activist and the cofounder of Speak Up Sophia, a student organization that promotes sexual consent in Sophia University, they have hosted numerous consent and bystander intervention workshops across universities in Tokyo.

Aurora Pinelli
She has worked on conflict-based sexual violence in Bosnia and Herzegovina and researched sexual crimes committed by the Bosnian regime against the Rohingya. Aurora represented Italy at the For Global Summit on gender equality, participated in the 2023 CSW, and founded Legal Change, an NGO fostering diversity in the legal profession.

Ismini Drososforidi
Ismini Drososforidi founded It's Just Period, advocating for menstrual equity in Greece. She also works at a seed-stage VC firm, supporting frontier tech companies addressing key societal needs.

MODERATORS

Momoko Yokoi
Japan BPW Federation CSW69 Interns

Chifumi Tanzawa
Japan BPW Federation CSW69 Interns

日本語版

英語版

また、Women's Action Network に載せる用のチラシとして、詳細を含めた2枚のチラシを以下作成した。

CSW69 (2025) Parallel Event

性的同意を文化に：若者が切り開く未来

SEXUAL CONSENT AS CULTURE: YOUTH LEADING CHANGE

お申し込みはこちら

"No Means No" から "Yes Means Yes"へ、性的同意の概念は、尊重の文化を築く上で重要な役割を果たしています。西洋諸国では、多くの大学が同意教育を提供し、法制度も「同意の文化」に基づいて強制性交罪を定義する傾向が強まっています。日本でも2023年に刑法が改正され、同意の概念が明文化されましたが、社会全体で性的同意が当たり前のものとなるには、まだ課題が残っています。本イベントでは、各国の若手アクティビストが一堂に会し、若者がどのように社会を変え、同意の文化を広げているのかを議論します。登壇者のプレゼンテーションやディスカッションを通じて、性暴力のない社会を築くための新たな視点を模索します。

DATE 2025年3月12日 水曜日
TIME 8時半 - 10時 (EDT) 21時半 - 23時 (JST)
LOCATION Online (Zoom)

PANELISTS

Misha Cade
東京大学大学院総合文化研究科
地域文化専攻後期課程3年

上智大学在学中、性的同意の重要性を伝える学生団体Speak Up Sophiaを立ち上げ、キャンパス内での啓発活動を実施。博士課程での研究テーマは、日本における性暴力被害者に対する支援策に関する研究。2023年にはCSW69に参加し、FORA Global Summitで、イタリア代表としてジェンダーの平等を推進するNGO「Legal Change」を創設し、その活動を通じて大学分野での社会変革を目指している。

Aurora Pinelli
Columbia大学法科大学院、Sciences Po Paris、パリ・ソルボンヌ大学の共同プログラム卒業生

国際犯罪や戦争犯罪を専門とする法学専攻の学生。ポスナ・ヘルツェゴビナにおける紛争関連性暴力や、ロヒンジャーに対する支援策に関する研究を行う。2023年にはCSW69に参加し、FORA Global Summitで、イタリア代表としてジェンダーの平等を推進するNGO「Legal Change」を創設し、その活動を通じて大学分野での社会変革を目指している。

Ismini Drososforidi
It's Just Period創設者。Egapon VCIにてインパクト投資およびオペレーションを専攻

社会課題への意識が研鑽された。2023年 Clinton Global Initiative フェロー、2022年 For Global Summit: フェロー、ガリシア・パネラック大学で通学を専攻し、Columbia大学で人権学の修士号を取得。生涯の関心が性暴力と人権に関する研究。Columbia Academic Commonsに所属されている。

※使用言語: 英語

National Federation of Business and Professional Women's Clubs of Japan

CSW69 (2025) Parallel Event

性的同意を文化に：若者が切り開く未来

SEXUAL CONSENT AS CULTURE: YOUTH LEADING CHANGE

お申し込みはこちら

イベントタイムライン

- オープニング
- 日本の活動家による基調講演「若者がどのようにして日本社会で性的同意を文化として根付かせるようしているか」
- 若者の活動家とのパネルディスカッション
- 質疑応答
- クロージング

※質問はチャットで受け付けます。
※イベント中は音声はミュートで参加ください。

CSWとは?
CSWは国連女性の地位委員会 (United Nations Commission on the Status of Women) の略で、毎年3月にニューヨークの国連本部で開催され、各国政府代表者やNGOなどが参加してジェンダー平等に向けた課題や必要な行動を協議・決議しています。

BPWとは?
BPWはBusiness and Professional Women's Clubsで日本BPW連合会。働く女性の地位向上を目指して活動しています。2017年に東京都の認定NPO法人資格を、2023年に国際経済法学会理事会 (ECOSOC) の特権資格を取得しました。

当日イベントは、CSW69 (第69回国連女性の地位委員会) の開催に合わせて開催されるパレルイベントの1つです。

MODERATOR & ORGANIZER
Japan BPW Federation CSW69 Interns

Momoko Yokoi
Japan BPW Federation CSW69 Interns

Chifumi Tanzawa
Japan BPW Federation CSW69 Interns

※使用言語: 英語

National Federation of Business and Professional Women's Clubs of Japan

日本語版

CSW69 (2025) Parallel Event

SEXUAL CONSENT AS CULTURE: YOUTH LEADING CHANGE

Agenda

- Opening
- Preparation from an activist in Japan: How youths are changing Japanese society to make sexual consent a culture of respect and discussion with youth activists
- Q&A
- Closing

*Questions will be accepted via the Zoom chat. *Please keep your audio muted throughout the event.

CSW
The United Nations Commission on the Status of Women (CSW) meets annually in New York at the United Nations Headquarters. It is a platform for women's rights advocates, government representatives and NGOs to discuss and resolve issues related to gender equality and the necessary actions to address them.

BPW
BPW stands for Business and Professional Women. The Japan BPW Federation is a non-profit organization established in 1945 to support the status of working women. It was officially recognized as a Tokyo Metropolitan Government-recognized NPO in 2017 and is a member of the United Nations Economic and Social Council (ECOSOC) in 2023.

This event is one of the parallel events taking place alongside CSW69 (the 69th session of the United Nations Commission on the Status of Women).

MODERATOR & ORGANIZER
Japan BPW Federation CSW69 Interns

Momoko Yokoi
Japan BPW Federation CSW69 Interns

Chifumi Tanzawa
Japan BPW Federation CSW69 Interns

※使用言語: 英語

National Federation of Business and Professional Women's Clubs of Japan

CSW69 (2025) Parallel Event

SEXUAL CONSENT AS CULTURE: YOUTH LEADING CHANGE

From "No Means No" to "Yes Means Yes," sexual consent has become significant to fostering a culture of respect. In western societies, many universities provide consent education, and legal frameworks increasingly define rape based on the absence of consent. In 2023, Japan revised its rape law to recognize consent, however sexual consent remains far from normalized within society. This event unites youth activists from different countries to discuss how young people can drive social change and promote a culture of consent, also as for engaging presentations, discussions, and fresh perspectives on building a society that says no to sexual violence.

DATE Wed March 12th, 2025
TIME 8:30am - 10am (EDT)
LOCATION Online (Zoom)

PANELISTS

Misha Cade
As an activist and the cofounder of Speak Up Sophia, a student organization that promotes sexual consent in Sophia University, they have hosted numerous consent and bystander intervention workshops across universities in Tokyo.

Aurora Pinelli
She has worked on conflict-based sexual violence in Bosnia and Herzegovina and researched sexual crimes committed by the Bosnian regime against the Rohingya. Aurora represented Italy at the For Global Summit on gender equality, participated in the 2023 CSW, and founded Legal Change, an NGO fostering diversity in the legal profession.

Ismini Drososforidi
Ismini Drososforidi founded It's Just Period, advocating for menstrual equity in Greece. She also works at a seed-stage VC firm, supporting frontier tech companies addressing key societal needs.

MODERATOR & ORGANIZER
Japan BPW Federation CSW69 Interns

Momoko Yokoi
Japan BPW Federation CSW69 Interns

Chifumi Tanzawa
Japan BPW Federation CSW69 Interns

※使用言語: 英語

National Federation of Business and Professional Women's Clubs of Japan

英語版

【登壇者】

司会：丹沢千文・横井桃子（CSW69 インターン）

基調講演：ミーシャ・ケード

パネリスト：

- ・ミーシャ・ケード
- ・オーロラ・ピネッリ
- ・イスミニ・ドロソフォリディ

【目的と趣旨】

1. 女性の地位向上に取り組む活動家や関係者が各国から集まる CSW69 において、日本の性暴力の問題とそれに対する若者の活動についての現状を発信する
2. 各国からの参加者との議論を通して、より効果的なアクションを検討する
3. イベントでの学びを踏まえて、各国の政策に対するアドボカシー活動の参考にして頂く

【アジェンダ】

8:30-8:40（21:30-21:40）趣旨説明と参加者アンケート

8:40-9:00（21:40-22:00）基調講演「若者による性的同意文化の普及への取り組み」

9:00-9:40（22:00-22:40）パネルディスカッション

9:40-9:50（22:40-22:50）Q&A セッション

9:50-10:00（22:50-23:00）参加者へのアクション呼びかけ（第3者介入の紹介）

2-2. パラレルイベントの舞台裏－企画のプロセス

① パラレルイベントのテーマの決定

CSW69 の全体テーマ「北京+30」は非常に広範な内容を含んでいたため、まずはインターン 2 名の関心領域を洗い出すところから始めた。その中で「女性の政治参加」と「性的同意」の 2 案に絞られたが、私は大学時代から性的同意の普及活動に取り組んでおり、講師候補とのつながりもあったため、このテーマが現実的かつ意義あるものと判断した。さらに、2023 年に日本で刑法が改正され同意の概念が法的に認識されたタイミングでもあり、世界各国の若者を招いて議論することで、よりインパクトのある国際的対話が可能になると考え、最終的に「性的同意と若者のアクティビズム」をテーマに決定した。

② 講師の方の決定・連絡

登壇者はすべて、私が過去の活動を通じて信頼関係を築いてきた仲間に依頼した。基調講演には、学生時代に共に性的同意の啓発団体を立ち上げ、現在は東京大学博士課程で研究を

続けているミーシャ・ケードを招いた。パネルには、2022年にカナダのFORAサミットで出会ったイタリアのアクティビスト・オーロラと、ギリシャで生理の平等運動を行うイスミニを招待した。ミーシャは東京から、オーロラとイスミニはNY現地からの参加となり、時差の影響も少なくスムーズな運営が可能であった。

③ イベントの開催方法

主催団体であるNGO CSW/NYの方針では、ハイブリッド開催は基本的に非推奨とされていたため、オンライン形式での開催を選択した。イベントの内容を国内外の幅広い層に届けることを目的とし、Zoomを利用した形式で実施することにした。事前のWhova登録者数が200名を超えたことから、当初のZoomプランでは対応できないことが判明し、急遽BPWの皆様にご調整いただき、500名まで参加できるプランへ変更していただいた。BPW連合会の迅速なご対応により、当日は多くの参加者とともに円滑な進行が実現した。

④ 役割分担と運営体制

準備段階では、効率的な進行のため役割分担を明確にした。議事録やフライヤーはGoogle Driveで共有、フライヤー作成にはCanvaを活用した。渉外は講師やBPW連合会事務局とのやりとりをLINEやWhatsAppで行い、柔軟かつ迅速な連絡体制を構築した。イベント企画書には、団体名・担当者名・目的・講演依頼内容・進行概要などを明記し、関係者間で共通認識を持てるよう工夫した。全体を通して、藤田専務理事をはじめとするBPW連合会の皆様の手厚いご支援により、安心して準備を進めることができた。

2-3. 当日の様子

① 開始前

当日は、丹沢さんと私を含む登壇者・運営メンバーが、それぞれ滞在していたホテルからZoomに接続した。ホテルのWi-Fi環境も安定しており、事前に全員で実施したりハーサルの効果もあり、開始直後から大きなトラブルなく進行することができた。ZoomのPoll機能なども活用予定だったため、機能面での確認も入念に行った。当日は、パネリストには開始15分前に入室してもらい、参加者は5分前から入室可能とすることで、落ち着いて配信体制を整えることができた。

② イベント

イベントには最終的に105名が参加し、終了間際まで約90名が参加し続けるなど、関心の高さがうかがえた。途中退室する参加者からも「とても興味深い内容だったが、次の予定

のため退出します」といったコメントが多く寄せられ、満足度の高さが感じられた。内容は、開会の挨拶と趣旨説明に続き、ミーシャ・ケード氏による基調講演、そして3名のアクティビストによるパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、以下の質問をした。

- ・質問①：アクティビズムを始めたきっかけ、決定的な経験は？
- ・質問②：抵抗やバックラッシュを受けた経験、それをどう乗り越えたか？
- ・質問③：あなたの国での「性的同意」への理解は？（5分）
- ・質問④：法制度だけでなく、文化的・社会的障壁は？（5分）
- ・質問⑤：インターセクショナリティ（交差性）への配慮はどう行っているか？（5分）
- ・質問⑥（Closing Question）：性暴力根絶に向けて希望を持てる要素は？（3分）

特に印象的だったのは、「インターセクショナリティ（交差性）への配慮はどう行っているか」という問いに対するパネリストの言葉である。活動地域もリソースも限られている中、見えていない視点がないかどうか常に問い直していると語ってくれた。このような姿勢を私自身の活動でも大切にしていきたいと感じる同時に、むしろリソースのある企業や教育機関こそ、こうした視点を率先して取り入れる責任があると感じた。

③ イベント終了後

終了後は、事前に準備していたQRコードを用いてアンケート回答を促したが、時間に余裕がなかったため、実際に回答が得られた数はごく少数にとどまった。後日、藤田専務理事よりメールでのフォローアップも実施されたが、大きな回収にはつながらなかった点は反省点である。一方で、Zoomのチャット欄では多くの参加者から積極的なコメントや感想が寄せられ、「これまで参加したCSWの中でも非常に印象的だった」「もっと長く聞きたかった」といった声もあり、イベント全体として高い評価を得ることができた。



ミーシャ・ケードさんによる基調講演



参加者と撮った写真

3. インターン個人報告

3-1. 横井桃子

この度、BPW 連合会のご支援のもと、国連女性の地位委員会（CSW69）にインターンとして参加する機会を頂けたことに、心より御礼申し上げます。私の報告パートでは、(1) CSW69 インターン参加のきっかけ、(2) CSW69 での発見・学びの、(3) 今後のアクションに分け、CSW69 に関する自身の経験を記す。

【CSW69 インターン参加のきっかけ】

CSW への関心を抱いたのは大学4年時、教授の勧めでCSW64のインターンに応募したのが最初であった。残念ながら新型コロナウイルスの影響で派遣は中止となったが、それから5年を経てようやく現地での参加が実現した。当時はUN Women 日本事務所でのインターンを終えた直後で、CSWについても耳にしていた。また、大学3年から性的同意の重要性を広める活動に取り組み、世界中のアクティビストが集まる場でより多くを学びたいという思いを強く抱いていた。その後、シスコシステムズに就職し、男性が多数を占める営業チームで働く中で、日本における職場環境やジェンダー不平等を実感するようになった。加えて、NPO 法人 mimosas の副理事として、性的同意をテーマにした啓発活動も継続してきた。今回のCSW 参加にあたっては、こうした実体験と背景を携え、世界各国のアクティビストと実践的な知見を交わすことを目的に臨んだ。

【CSW69 での発見・学び】

とりわけ印象に残ったのは、UN Women 主催の Global Youth Dialogue における「インターセクショナリティへの可視化の工夫」である。舞台上には誰も座っていない椅子が置かれ、「VISA 取得の困難さや紛争下にあることなどを理由に、この場に来ることができなかった人々の象徴」として紹介された。自らの現地参加が特権であること、そしてこの空間は「こ

こに來られなかった人々」の声を代弁するものであるという認識を、視覚的に強く喚起された。この発想と姿勢は、日本でイベントを行う際にも大いに参考になると感じた。

また、「So What' s now? Reviewing progress in the US on equity」という米国のセッションでは、教育現場における性差別禁止制度・Title IXの成り立ちと運用について、登壇者に直接質問を行うことができた。この制度は、私が運営に関わったパラレルイベントでも議題となった。草の根の声から制度が生まれ、それが現場で運用されているというプロセスを知ること、日本における制度的空白とそこにある可能性を強く実感した。

さらに、日本政府代表団のユース代表として参加したことにより、大崎麻子さんや橋本ヒロ子先生をはじめ、日本のジェンダー分野で長年第一線で活躍されてきた方々と直接対話する機会にも恵まれた。世代や立場を超えて、それぞれがどのようにジェンダー課題と向き合ってきたのかを伺うことで、自身の活動をより長期的・多層的な視点で捉えるきっかけとなり、今後のキャリアや社会との関わり方を考えるうえで大きな示唆を得ることができた。

【今後のアクション】

今回の経験を通じて、アドボカシーへの関心が一層高まった。今後は、政策と現場をつなぐ橋渡し役として、ジェンダー平等を文化として根づかせる社会の実現に貢献したいと考えている。進学予定のUniversity College Londonではジェンダー学を体系的に学びながら、現地NGOでの実践も通じて政策提言の力を磨いていくつもりである。大学院進学を決意した理由の一つは、ジェンダーを専門としてフルタイムで取り組む仕事に就きたいという思いであったが、CSWを通してその後のキャリアの選択肢や、国際機関における実務の可能性も具体的に描けるようになった。

最後に、CSW69への参加、ならびにパラレルイベント開催にご尽力くださったBPW連合会の皆様に改めて深く感謝申し上げたい。また、Fish Family Foundationより渡航費等の経済的支援を賜ったことにも、心より御礼申し上げる。この貴重な機会で得た知見と学びを自らの活動に確実に還元し、社会に変化をもたらす担い手として今後も歩みを進めていきたい。

3-2. 丹沢千文

この度は、CSWに参加するという貴重な機会を賜り、心より御礼申し上げます。高校生の頃、BPWのメンバーより紹介を受けて以来、約十年の歳月を経て実際に参加が叶ったことは、誠に光栄である。

今回の参加を通じて、ジェンダー平等の推進に向けた国際的な動向を最前線で学ぶという、貴重な経験を得ることができた。とりわけ、NGOが主導するイベントにおいては、資金削減やプッシュバックの強まりといった困難な状況下においても、市民社会が結束し、具体的な行動を継続している現実を目の当たりにした。この経験を通じて、ジェンダー平等の実

現には、政府や専門家の尽力に加え、草の根の運動および市民社会の声が不可欠であるとの認識を改めて深めた次第である。

特に印象深かったイベントにおける経験を記録したい。政府主催の「League of Arab States, Arab Women Committee – *Women in Gaza Rising for Freedom and Dignity: High-Level Side Event on the Margins of the 69th Session of the Commission on the Status of Women*」および、NGO 主催の「Testimonies from Gaza」である。いずれもガザ情勢をテーマとしており、最も緊急性の高いものであると認識し、渡航前より参加を決めていた。前者の政府主催イベントでは、各国の要人が登壇し、即時停戦および女性の保護を国際社会に強く訴えた。会場では現地の映像も上映され、状況の深刻さが伝えられた。一方、NGO による「Testimonies from Gaza」では、現地の女性記者の証言を通じて、日常における暴力や抑圧の実態を明らかにした。証言の途中で通信が遮断される場面もあり、彼女たちの声が遮られる現実直面した。政府主催イベントが行われた大会場との情報環境の格差や、声が届くかについて、不均衡を痛感せざるを得なかった。

全体的に厳しい緊迫感を改めて認識するとともに、世界各地から集ったフェミニストたちの連帯をまえに、大きな希望を抱く機会にもなった。多くの会議において、インターセクショナリティの視点の欠如が共通する課題として挙げられていた。近年、フェミニズムの一部にも右傾化や排除の傾向が見られる中、こうした批判的視点が共有されたことには、今後の運動に対する前向きな兆しとして認識したい。また、「ユース」として活動できる時間には限りがあることを改めて認識し、今この瞬間に行動を起こす必要性を強く自覚した。参加前には、学生という立場にないことへの不安もあったが、現地において、年齢・職業・背景を問わず、多様な人々がそれぞれの現場で声を上げ、闘っている姿に触れることができ、大きな励ましを得た。

今後は、ジェンダーに基づく差別や暴力の根絶、そしてすべての人が安全かつ尊厳をもって生きられる社会の実現に向け、CSW69 で得た知見と構築したネットワークを最大限に活かしていく所存である。最後に、平松昌子様メモリアル基金によるご支援、ご尽力くださったBPWの皆様、諸先生方、そして多くの場面で支えてくださったインターンの横井さんに、改めて深く感謝申し上げる。

4. 現地情報について

実際に参加して「これは事前に知っておいてよかった」と感じた情報を厳選して共有する。ネットで調べれば得られる一般的な情報ではなく、現地での体験から得たリアルな気づきを中心にまとめた。

報告：インターン一同

● 国際女性デー（3月8日）当日の Women' s March に関して

会期中には、ニューヨーク市内で Women' s March（女性の権利を訴えるデモ行進）が開催されることがある。貴重な経験となるため、時間が合えばぜひ参加を推奨する（安全には十分留意のうえで、各自判断してほしい）。

● イベント登録はできるだけ早めに

人気イベントは登録締切前でも参加枠が埋まることもある。特にパラレルイベント（サイドイベント）は事前登録が必要なものも多いため、渡航前から Whova 上で「参加したいセッションのリストアップ+登録」はしておくで安心。

● 会場はとにかく混む+イベント会場に要注意

- バッジの種類によって入れる会場が異なることがあるため、事前確認が望ましい。
- 国連本部に入る際のセキュリティチェックは長蛇の列になることもあるため、余裕を持った行動が◎。
- イベントによっては国連本部から徒歩 15～20 分離れた会場で行われることもあるため、会場の場所を事前に確認してから出発すると安心。
- 人気セッション後のエレベーター渋滞もあるので、次の移動に余裕を。

● ランチタイムは計画的に

国連本部内のカフェはとても混雑する傾向にある。周辺でサクッと食べられるお店を事前に調べておくことを勧める。

第 23 回 CSW インターン募集

2026 年国連女性の地位委員会(CSW 70)
へ派遣する女性インターンを募集します

認定 NPO 法人日本 BPW 連合会は、国際問題に関心を持つ若い女性を対象に、毎年ニューヨークの国連本部で開催される女性の地位委員会（CSW）に派遣するインターンを募集します。



募集目的 国際問題・国連問題・ジェンダーの問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う女性を支援する目的で行われるもので、国連本部及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。

CSW 70 の優先テーマ： すべての女性と女兒の司法へのアクセスの保証と強化をはかり、包摂的で公平な法制度の促進、差別的な法律や政策、慣行の廃止、構造的な障壁への対応等の取り組みを含む。（仮）

期 間 CSW70 は、国連本部で現地時間 2026 年 3 月 9 日～20 日に開催されます。事前の登録手続きや BPW インターンの顔合わせなどの都合で、現地滞在は CSW 開会前々日から前半 1 週間を含む 10 日以上を推奨します。さらに他のイベント・プログラムに参加希望の場合は、早めの現地入りが必要になります。

6つの特典

- ニューヨークの国連本部ビルへの入館証(グラウンドパス)が付与されます。
- CSW 本会議と平行して行われる様々なイベントやワークショップに参加し、発言し、意見を述べる事ができます。
- 国連や CSW に関する説明や解説を事前あるいは現地で受けることができます。
- 日本政府代表部がおこなう NGO 参加者を対象とした公式説明会に参加できます。
- 世界各国の女性団体の参加者と交流できます。
- 国際関係・ジェンダーの問題を専攻する学生は、論文作成などのための最前線の資料を入手できます。

※ さらに BPW に入会すると、BPW International (IFBPW) の会員ともなり、IFBPW 主催の各種活動（CSW 開始前に実施されるリーダーズサミットやワークショップ、交流会など）に参加できます。

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ 20 歳～35 歳の女性、若干名。事前勉強会への参加、関係各所への表敬訪問、ニューヨークでは日本政府国連代表部のブリーフィングへの参加など、インターン活動を優先していただける方。帰国後は、報告書（活動写真含）を作成し日本 BPW 連合会に提出いただく他、BPW が企画するイベント（報告会・BPW ヤング会員企画・各地の BPW 活動）などに参加いただける方。

費 用 航空運賃・宿泊費・生活費は原則自己負担。海外旅行保険も自己負担になりますが、必ずご加入ください。また、NGO ブリーフィングのほか、有料イベントへの登録料も、原則各自負担になります。但し、BPW が行うイベント（交流会他）への参加費の一部は日本 BPW 連合会が負担します。

応募方法 E-mail にて、応募必要事項記載の上、小論文で応募動機および国際問題・ジェンダーの問題・国連に関するあなたの意見を日本語（1000 字前後）および英語（500words 以内）で述べ、添付・送信してください。

【応募メールへの必要記載事項及び必要添付書類は、必ずホームページをご確認の上応募ください】

応募・問合せ csw2026@bpw-japan.jp（日本 BPW 連合会インターン担当）件名「UN-CSW インターン」と記載してください。

応募〆切 2025 年 9 月 10 日（水） 23 : 59

結果発表 2025 年 10 月 10 日（金） までにメールで連絡します

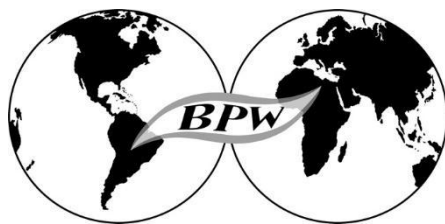
※ 選考にあたり、インタビュー（面談・オンライン）を行います。
また選考後、BPW の事業主旨にそぐわないと判断される場合は、派遣を取り消すこともあります。

その他 最新情報・募集要領・メールフォームは、下記 BPW のホームページにも掲載しますのでご参照ください

<https://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html>



- ☆ CSW は United Nations Commission on the Status of Women の略。
1946 年、国連経済社会理事会（ECOCOC）の機能委員会の一つとして設置。年次会合は 3 週目の金曜日頃に合意結論が出て閉会する。
- ☆ 日本 BPW 連合会は、国連経済社会理事会から特殊協議資格を付与された国際 NGO です。
総合協議資格をもつ国際 NGO、BPW International (IFBPW) にも加盟しています。



CSW インターン派遣事業の詳細・最新情報は、
日本 BPW 連合会のホームページをご確認ください。

<https://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html>



認定 NPO 法人 日本 BPW 連合会 2025.8.16 発行（頒布価格 500 円）

〒151-0052 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館ビル 303

TEL 03-5304-7874 FAX 03-5304-7876

E-mail office@bpw-japan.jp URL <https://www.bpw-japan.jp>